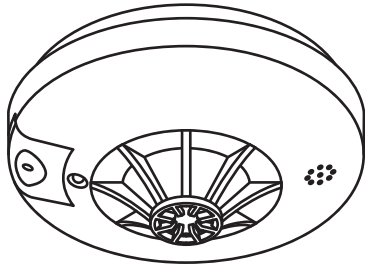


取扱説明書

住宅用火災警報器
(熱式、自動試験機能付)

消防法令適合品



FSLJ002-B (移報接点無し)

FSLJ002-S (移報接点付)

(電池式、10年タイプ)

お買い上げいただきありがとうございます。
ご使用にあたりましては、必ずこの「取扱説明書」をお読みいただき、
正しくご愛用のほどお願いいたします。なお本取扱説明書はいつでも
お読みいただけるところに大切に保管してください。
この取扱説明書は保証書をかねています。

NOHMI

保証書

製品記号	FSLJ002-B/S
保証期間	1年間
お買い上げ日	年 月 日
お客様	ご住所
	お名前 様
	電話
販売店	住所・店名
	電話

NOHMI 能美防災株式会社

本社 〒102-8277 東京都千代田区九段南 4-7-3
URL <http://www.nohmi.co.jp/>

1.ご使用になる前に

- この商品は、火災の熱をキャッチして警報音で知らせる住宅用火災警報器です。
- この警報器は日本消防検定協会の試験に合格した鑑定品です。(消防法に規定された「自動火災報知設備」には代用できません。)
- お取り付けいただいた部屋、廊下などの部分的な警戒になりますので、万一の火災に対してより効果を発揮させるためには必要に応じて、複数の場所にお取り付けいただくことをおすすめします。
- 本警報器を正しくお使いいただくために、この取扱説明書にはいろいろな注意事項を記載しています。注意事項の表示は以下のようになっていますので、内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告	【安全上の注意】 取り扱いを誤った場合に、取扱関係者が重傷または軽傷を負う危険な状態が生じることが想定される場合、または警報機能の一部に重大な悪影響を及ぼす可能性がある場合。
注意	【安全上の注意】 取り扱いを誤った場合に、取扱関係者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定される場合、または警報機能に悪影響を及ぼす可能性がある場合。

2.ご使用上の注意

本警報器は火災で発生する熱をキャッチして警報音で知らせるもので、消火装置や火災防止器ではありません。火災などによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。

警告
本警報器は絶対に分解・改造・針金など異物の挿入はしないでください。また、落下などにより衝撃を与えた機器は使用しないでください。
本警報器は設置場所の熱をキャッチして、警報を発します。日頃、人のいない部屋に設置する場合は警報音が聞こえることを確認のうえ設置してください。また、次のような場合は警報音に気付かないことがありますので注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> 薬を服用後または飲酒後に就寝した場合。 就寝部屋以外で警報器が作動した場合。 交通、ステレオ、ラジオ、エアコンなどの騒音が大きい場合。
本警報器は、次のような火災では作動しないことがありますので注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> 火のまわりの早い火災 くん煙火災(熱の発生しない火災) ガス漏れや薬品による爆発的な火災

注意
本警報器は屋内型ですので、屋外での使用はおやめください。
電池切れ時は警報音は鳴りませんので注意してください。
コンロやストーブの近くなど、高熱環境になる場所には取り付けしないでください。誤報の原因になります。

3.特長

本警報器は、火災の熱をキャッチし、警報音でお知らせする住宅用火災警報器です。火災発生時には「ピー、ピー、ピー」という警報音で火災の危険をお知らせします。

■警報器の機器交換の目安は約10年

本警報器は電池で動いています。約10年間の機器交換の目安まで電池交換なしでご利用いただけます。電池寿命が近づくと、約1分間隔で「ピ」と鳴り、警報灯が1回点滅し、警報器の交換時期をお知らせします。音を止めたいときは、警報停止ボタンを約5秒間以上押す（または、引きひもがある場合は約5秒間以上引く）と、約24時間警報音が停止します。（警報音停止中は警報灯が約10秒間隔で1回点滅します。）

注意	機器交換の目安を越えて使用すると、汚れなどにより熱感度が悪くなり、火災の感知が遅れる可能性があります。10年を経過した警報器は、速やかに新しい警報器と交換してください。
注意	警報音が約1分間隔で「ピ」と鳴り、警報灯が1回点滅したら、機器交換の目安（電池寿命）です。販売店にご連絡のうえ、速やかに新しい警報器または電池と交換してください。火災の感知ができなくなる場合があります。

※警報器の交換の目安は約10年ですが、使用環境や使用条件によって短くなる場合があります。

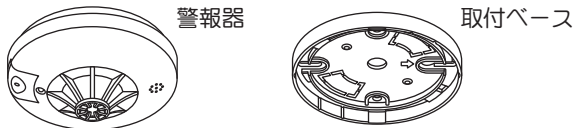
■警報器は自動試験機能を有しています

本警報器は、センサの感度が劣化して正常に熱を監視できなくなった場合、自動的に異常をお知らせする、自動試験機能を有しています。異常を検出すると、約1分間隔で「ピピピ」と鳴り、警報灯が3回点滅します。音を止めたいときは、警報停止ボタンを約5秒間以上押す（または、引きひもがある場合は約5秒間以上引く）と、約24時間警報音が停止します。（警報音停止中は警報灯が約10秒間隔で3回点滅します。）

注意	警報音が約1分間隔で「ピピピ」と鳴り、警報灯が3回点滅したら、センサの感度が劣化しています。販売店にご連絡のうえ、速やかに新しい警報器と交換してください。火災の感知が遅れる場合があります。
-----------	--

4.商品のご確認

次のものが揃っていることを確認してください。



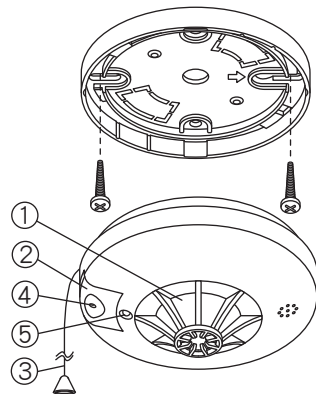
- ①警報器（1個）
- ②取付ベース（1個）
※出荷時に警報器に取り付けてあります。
- ③取付ネジ（2本）
- ④取扱説明書（本書）
- ⑤専用リチウム電池（1本）
公称電圧 DC3V
※市販品ではありません。
- ⑥移報コネクタ
(FSLJ002-S 移報接点付のみ)

5.各部の名称と働き

■取付ベース、取付ネジ

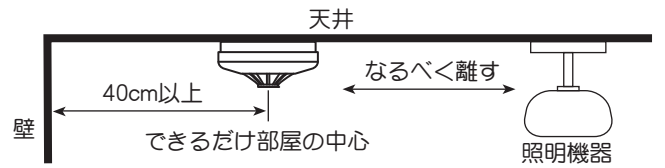
警報器を天井または壁に取り付けるために使用します。

- ①熱感知部（サーミスタ）
このサーミスタで熱を感知します。
- ②警報停止ボタン（テストボタン 兼用）
・警報音「ピー、ピー、ピー」を止めたい時：
ボタンを押してください。
・テストをしたい時：
ボタンを押してください。
警報音により状態をお知らせします。
- ③引きひも（取り付けがある場合）
引きひもを引くことで、警報停止ボタンと同じ操作をすることができます。
- ④ひも用穴
引きひもを取り付けるための穴です。引きひもを取り付ける場合は、能美防災(株)までご連絡ください。
- ⑤警報灯（赤色）
警報時、点灯または点滅します。

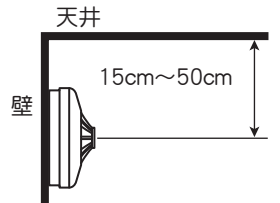


6.警報器の取付場所

- 本警報器は台所などへの設置をおすすめします。
- 警報器の警報停止ボタン（および、引きひもがある場合は引きひも）が操作しやすい位置に取り付けてください。
- 天井面に取り付ける場合は壁や角から水平距離40cm以上離します。



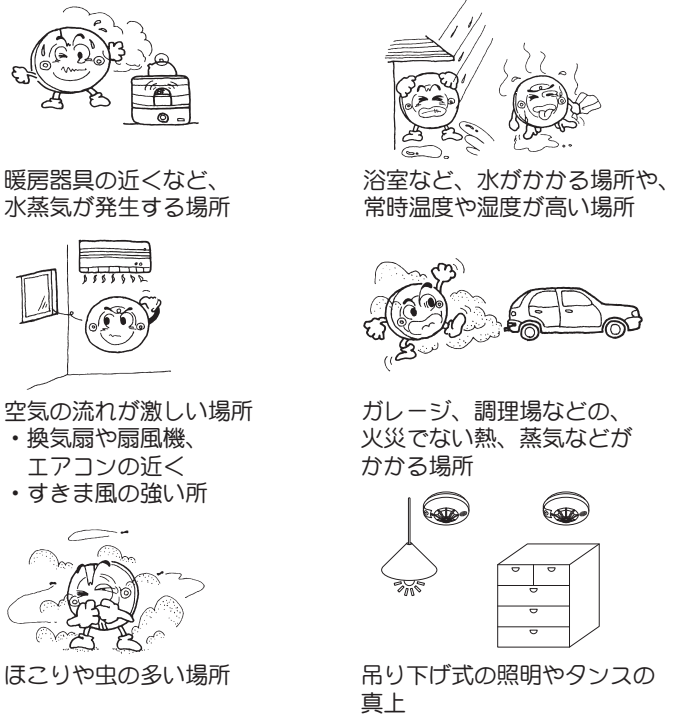
- 壁面に取り付けるときは天井面下15cmから50cmまでの範囲で部屋の中心に取り付けてください。警報停止ボタン（および、引きひもがある場合は引きひも）が下になる方向に取り付けてください。



- 換気口などの空気吹き出し口から1.5m以上離してください。

注意	警報器は必ず正しい取付場所に取り付けてください。次のような場所に取り付けた場合、誤作動の原因および正常に火災を警報できない可能性があります。
-----------	--

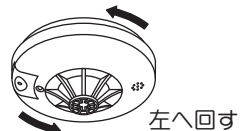
次のような場所には取り付けないでください。



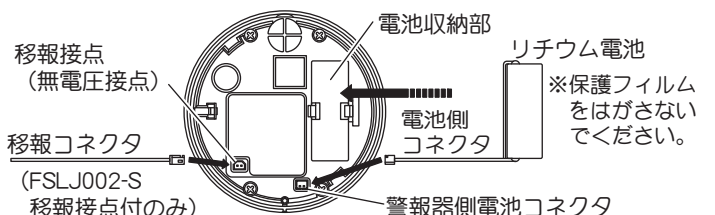
- ・警報器は0℃～40℃の温度範囲内で結露しない場所に取り付けてください。

7.警報器を取り付ける前に

- 警報器と取付ベースを外します。
- ・取付ベースを押さえ、警報器を左に回して取り外してください。



- 電池を取り付けます。



- ・電池側コネクタと警報器側電池コネクタを接続してください。
- ・警報器の裏面にある電池収納部に電池を納めてください。この時、電線を電池と収納部の間に挟まないようにしてください。警報器が取付ベースに取り付けられなくなります。



図のように電池側コネクタの突起と警報器側電池コネクタの溝をあわせて、奥までしっかりと接続し電池収納部に電池を納めます。

- 移報が必要な場合は、移報コネクタを取り付けます。(FSLJ002-S 移報接点付のみ)
- ・移報接点に、付属の移報コネクタを接続してください。
- ・移報コネクタの末端を接続機器の配線に圧着してください。
※移報接点に極性はありません。(接点容量 DC50V、100mA)

警告	電池は必ず指定のものをお使いください。 (指定以外のものを使用すると、故障の原因になります。)
警告	コネクタを奥までしっかりと接続し、電池を正しく収納してください。正しく接続されていない場合、警報器が作動せず、警報音が鳴りません。 〔電池を取り付けた後、必ずテストボタンを押して(または、引きひもがある場合は引いて)作動確認を行ってください。なお、電池取り付け後、約5秒間は作動しません。〕

8. 警報器の取付方法

次の手順にしたがって警報器を取り付けてください。

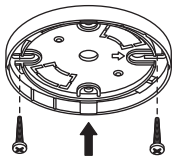
警告	警報器の取り付けは、安定した台に乗って作業を行ってください。 転倒してけがをする可能性があります。

- 設置年月を記入してください
警報器本体に貼付している、設置年月シールに年月を記入してください。

■天井に取り付ける時

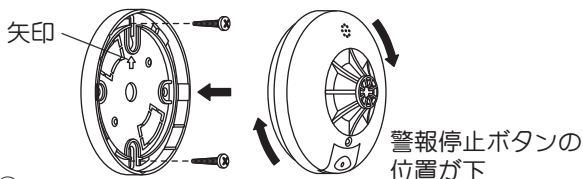
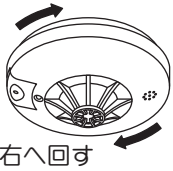
手順①
天井面の梁などが通っている場所に、取付ネジで取付ベースをしっかりと固定してください。

手順②
警報器の底面部を取付ベースに当て、警報器が止まるまで右に回してください。



■壁に取り付ける時

手順①
壁面の柱などが通っている場所に、向きを間違えないように(矢印を上にする)取付ネジで取付ベースをしっかりと固定してください。



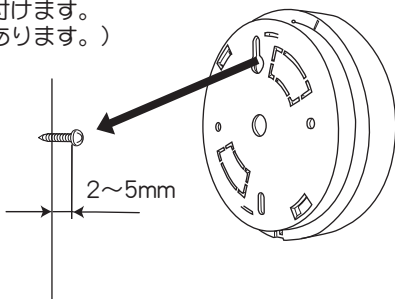
手順②
警報器の警報停止ボタンが下になるように取付ベースと合わせ、止まるまで右に回してください。

■壁に掛けて取り付ける時

手順①
警報器と取付ベースを取り付けます。
(製品出荷時は取り付けられています。)

手順②
取付ネジを壁の途中までねじ込んでください。
(ネジ頭と壁の間が2~5mmの範囲になるまでねじ込んでください。)

手順③
取付ベース背面にある取り付け穴に、ネジ頭を引っかけてください。



警告	取り付け後は必ずテストを行ってください。 テスト方法については、「10. テスト方法」の項目をご参照ください。

9. お手入れ方法

- ・毎年1度は、中性洗剤を浸して十分に絞った布で警報器の汚れを拭き取ってください。この際、熱感知部に触れないように注意してください。

警告	警報器を水洗いしないでください。 また、ベンジンやシンナーを使用しないでください。 故障の原因になります。
注意	警報器を改造、分解しないでください。警報器は精密に調整されていますので、正常に作動しなくなる恐れがあります。

10. テスト方法

- ・取り付け後は定期的に(1ヶ月に1度)または、3日以上留守にされたときは、テストボタンを押して(または、引きひもがある場合は引いて)、警報器が正常に作動するかテストしてください。

テストの結果は、警報音と警報灯で判断できます。

- ・「ビビ、ピーピーピー」と鳴り、警報灯が点灯
→警報器は正常に監視しています。
- ・「ビビ、ピ」と鳴り、警報灯が1回点滅
→機器交換の目安(電池寿命)です。警報器または電池を交換してください。
- ・「ビビ、ピピピ」と鳴り、警報灯が3回点滅
→センサの感度が劣化しています。警報器を交換してください。

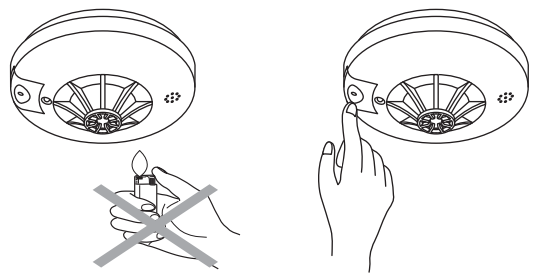
- テストボタンを押して(または、引きひもがある場合は引いて)も何も音が鳴らない場合は、電池の未接続、電池寿命、または警報器の故障が考えられます。「15. 故障かな?と思ったら」の項目をご参照ください。

- ドライヤーなどで加熱して試験を行い、警報停止ボタン(または、引きひもがある場合は引きひも)により警報音を停止したときは、約5分間テストができなくなります。

- FSLJ002-S型では、移報テストができます。

テストボタンを押す(または、引きひもがある場合は引く)と「ビビ、ピーピーピー」と鳴りますが、そのまま操作し続けると移報接点端子に出力しますので、外部接続機器との接続を確認することができます。操作をやめると移報出力を終了します。

警告	・テストのとき、決してライターなどの炎を使用しないでください。警報器を壊すばかりでなく、火災の原因になります。 ・テストボタンを押すときは、安定した台に乗っておこなってください。転倒してけがをする可能性があります。



11. 警報器の廃棄について

本警報器を廃棄する際は、市町村によって定められたルールにしたがってください。(電池はリチウム一次電池を使用しており、水銀は含まれていません。)

12. 警報器が作動したときは

熱を感知すると次のように警報音「ピー、ピー、ピー」と警報灯(赤色)でお知らせします。



- 火災の時
火元を確認し、避難してください。
119番へ連絡するなど適切な処置をしてください。

- 火災でない時
火災以外でも、警報をすることがあります。警報停止ボタンを押し(または、引きひもがある場合は引く)か、室内を換気すると警報が止まりますので、警報器を外したり、電池を抜いたりしないでください。

警告	警報音が「ピー、ピー、ピー」と鳴動した時、電池を外さないでください。 警報停止ボタンを押し(または、引きひもがある場合は引く)と、警報音は止まります。 熱感知部に熱が残っている場合は約5分後に再び警報音が鳴ります。換気などを行うことにより警報音は自動的に止まります。

13. 警報音の停止方法

- 警報音が「ピー、ピー、ピー」と鳴動しているとき
警報停止ボタンを押して(または、引きひもがある場合は引いて)ください。

約5分間警報音が停止します。約5分後に再度警報音が鳴動する場合は、うちわなどで風を送り、警報器を冷やしてください。



- 警報音が「ピ」または「ピピピ」と鳴動しているとき
販売店にご連絡のうえ、速やかに新しい警報器または電池と交換してください。
音を止めたいときは、警報停止ボタンを約5秒以上押して(または、引きひもがある場合は約5秒以上引いて)ください。
約24時間警報音が停止しますが、その間は警報灯が約10秒間隔で1回または3回点滅します。

警告	警報音は電池コネクタを抜くことによっても止まりますが、 <u>コネクタを抜いた警報器は絶対に取り付けないでください。</u> 火災の感知ができなくなります。

14. 仕様

商品名	FSLJ002-B (移報無し)	機器交換の目安	約10年 [*]
	FSLJ002-S (移報付)	警報音量	1mにて70dB以上
種別	住宅用火災警報器 熱感知方式(定温式)	外形寸法	φ98mm×44mm
		質量	約120g(電池含む)
鑑定型式番号	鑑住第18~19号	移報接点 (移報付のみ)	無電圧 1a接点
定格	DC3V 50mA		定格: DC50V 100mA
電源	専用リチウム電池 (下記いずれか)	使用温度範囲	0℃~40℃
	・CR17450E-R-CN10 ・CR17450E-N-CN10 ・CR17450WK21		

※ 機器交換の目安は、使用温度などの外部環境や使用条件によって短くなることがあります。

15. 故障かな?と思ったら

警報器の症状とその原因、対処について下表に示します。下記の対処を行っても直らない場合は、お買い上げの販売店までご連絡ください。

症状	原因	対処
■何も操作していない時に・・・		
火災でないのに「ピー、ピー、ピー」と鳴り、警報灯が点灯。	火災以外の熱(料理中の熱、ストーブやガスコンロの熱、直射日光などによる熱)を警報器がキャッチしています。	警報停止ボタンを押し(または、引きひもがある場合は引く)か、警報器周辺の温度が下がるまでお待ちください。また、火災以外で警報音が多発する場合は、取付場所を変えてください。
約1分間隔で「ピ」と鳴り、警報灯が1回点滅。	機器交換の目安(電池寿命)です。	販売店にご連絡のうえ、新しい警報器または電池と交換してください。
約1分間隔で「ピピピ」と鳴り、警報灯が3回点滅。	センサの感度が劣化しています。	販売店にご連絡のうえ、新しい警報器と交換してください。

■テストをした時(ボタンを押した時/引きひもを引いた時)に・・・

何も音が鳴らない。	電池の未接続が考えられます。	電池コネクタが正しく接続されているか確認してください。
	警報器の故障か電池切れが考えられます。	販売店にご連絡のうえ、新しい警報器または電池と交換してください。
「ピピ、ピ」と鳴り、警報灯が1回点滅。	機器交換の目安(電池寿命)です。	
「ピピ、ピピピ」と鳴り、警報灯が3回点滅。	センサの感度が劣化しています。	販売店にご連絡のうえ、新しい警報器と交換してください。
「ピピ」と鳴り、警報灯が点灯、または消灯。	火災警報を停止中です。	約5分間経過の後、再度テストをおこなってください。
「ピピ」と鳴り、警報灯が約10秒間隔で1回点滅。	電池寿命の警報を停止中です。	販売店にご連絡のうえ、新しい警報器または電池と交換してください。
「ピピ」と鳴り、警報灯が約10秒間隔で3回点滅。	故障警報を停止中です。	販売店にご連絡のうえ、新しい警報器と交換してください。

16. アフターサービスについて

- この商品には保証書がついています。お買い上げの販売店で所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1ヶ年です。万一故障した場合は、内部機構を触らずにお買い上げの販売店にお申しつけください。保証規定により対応いたします。
- アフターサービスについてご不明な点、およびその他当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げの販売店か能美防災(株)にご連絡ください。

17. 保証規定

- 保証期間は、お買い上げ日から1ヶ年といたします。
- 通常のお取り扱いにおいて、保証期間内に万一故障した場合の交換は無償でいたします。
- 保証期間内においても、次のような場合は料金をいただきます。
 - イ) お取り扱い上の誤りによる故障または損傷
 - ロ) 不適當な改造や修理による故障または損傷
 - ハ) お引渡後の輸送、移動、衝撃による故障または損傷
 - ニ) 水害、地震、落雷など天災による障害
 - ホ) 保証書を紛失またはご提示のない場合
 - ヘ) 保証書の所定事項の記載もれ、または字句を書き替えられた場合